

令和7年度 大分こども病院 病院勤務医負担軽減計画【負担軽減項目】

負担軽減項目	取組項目	取組目標	取組条件		新規区分	達成状況	全体の状況	計画内容		備考
			令和6年度	令和7年度						
医師・看護師等の業務分担	医師と看護師間の業務分担の見直し	診察がスムーズにおこなえるよう、介助を付ける。	任意	既設	未達成	推進中	メディカルアシスタントを採用する	メディカルアシスタントを採用する	常時付く必要ない	
		検査室において、医師がおこなっている検体採取（鼻腔・咽頭拭い）を看護師が実施する。	必須	既設	部分達成	推進中	対象を増やす	対象を増やす		
		養育相談などは看護師が対応する	必須	既設	未達成	推進中	メディカルアシスタントを配置し、看護師の負担を減らす	メディカルアシスタントを配置し、看護師の負担を減らす		
	医師と他職種間の業務分担の見直し	疾患別のクリニカルパスやセットを作成し、計画作成の短縮を図る。	必須	既設	未達成	計画中	医師事務補助が介入する	診療情報管理士と医師事務作業補助者が連携し、新しいセット化のニーズ調査と新規作成をおこなう		
		医師の指示に基づき、管理栄養士が主となって栄養指導を実施する体制を構築する。	必須	既設	部分達成	推進中	栄養管理室の業務分担を行ない 積極的に指導が行える体制をつくる	栄養管理室の業務分担を行ない 積極的に指導が行える体制をつくる		
		調剤セットを準備する	必須	既設	部分達成	推進中	薬剤師2名体制にする	薬剤師2名体制にする	R6調剤事務確保済み	
		患者さんの呼び込みを医師以外がする	必須	既設	未達成	推進中	医師事務作業補助者・メディカルアシスタントがおこなう	医師事務作業補助者・メディカルアシスタントがおこなう		
		オンライン診療システムの説明と登録サポート	必須	新設	未達成	推進中	-	医事課・総務課・医師事務作業補助者が介入し、スムーズに診療がおこなえるよう支援する。		
	医師間の業務分担の見直し	ベテラン医師のコンサルテーションを受け易くする。	必須	既設	部分達成	推進中	小児科医を増員する	院外より講師を招き定期的に研修や講習会を実施する		
医師に対する診療補助体制等	医師事務作業補助者の配置	時間内診察時に代行入力し、診察時間の短縮を図る。	任意	既設	部分達成	推進中	医師事務作業補助者を増員	必要な個所に音声入力システムを増設	R6医師事務作業補助者増員済み	
	学会発表の支援	学会のデータ集積と分析	任意	新設	未達成	計画中	-	診療情報管理士と医師事務作業補助者が連携し支援をおこなう		
	オーダー分析	処方や検査などのオーダミスの分析と対策	任意	新設	未達成	計画中	-	薬局、検査室が分析・対策案をたてる		
	交替勤務制の導入	3交替制勤務を導入する。	必須	既設	部分達成	推進中	小児科医を増員する	小児科医を増員する	月所定労働時間は160時間または168時間	
医師の勤務体制	休暇の確保	勤務医が年に1回は最低5日間の連続休暇を確保できるようにする。	必須	新設	部分達成	推進中	-	小児科医を増員する		
	休憩室の確保	医師の休憩室や業務スペースを改善し、物理的なストレスを減少させる	必須	新設	未達成	計画中	-	改修工事をおこなう		
	当直翌日の勤務	当直翌日は1日休暇を取得する。連続当直はおこなわない。	必須	既設	部分達成	推進中	小児科医を増員する	小児科医を増員する		

令和7年度 大分こども病院 病院勤務医負担軽減計画【勤務状況と目標】

(1)医師の勤務状況等

項目	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
許可病床数	40 (休床10床)	40 (休床10床)	40 (休床10床)	35 (休床5床)
特定機能病院の適用	なし	なし	なし	なし
常勤医師数 (人)	13	12	12	11.8
短時間正規雇用医師数 (人)	3	3	3	1
勤務時間 医師1人あたり月平均 (時間)	162:53	166:41	166:46	160:10
超過勤務時間 医師1人あたり月平均 (時間)	12:43	5:00	9:07	10:55
当直回数 医師1人当たり月平均(回)	2.3	2.5	2.54	2.57
最大 (回)	5	7	7	8
最少 (回)	0	0	0	0

(2)目標

1.勤務時間の短縮と適正化

- ・目標:月平均勤務時間を5時間以内に抑える。
- ・具体策:医師事務作業補助者の増員など、業務の効率化を推進する。

2.休日と休暇の確保

- ・目標:勤務医が年に1回は最低5日間の連続休暇を確保できるようにする。
- ・具体策:勤務医を増員し、長期休暇が取りやすい環境を整備する。

3.医療DXの強化

- ・目標:医療DXの強化により、すべての職種の負担を軽減し、チーム医療の効率化を図ることで、医師の負担を軽減する。
- ・具体策:ナースコールシステムのリニューアル、バイタル連携、スマートフォンの導入、インカムの普及。

4.教育・研修機会の充実

- ・目標:医師のスキルアップとキャリア開発を支援するために、研修や教育プログラムを提供する。
- ・具体策:勉強会やセミナー、院内教育の機会を増やし、働きながら学べる環境を整備。

5.勤務環境の改善

- ・目標:医師の休憩室や業務スペースを改善し、物理的なストレスを減少させる。
- ・具体策:休憩時間や空間の確保、リフレッシュスペースの充実を図る。